

## ～この度、引っ越しました～

諸根 信弘

Medical Research Council Toxicology Unit,  
University of Leicester, England UK

渡英して、もうすぐ2度目のクリスマス。私は京大を辞め、愚息は修学院の幼稚園から Leicester (レスター) のイングランド国教会系列の小学校へ。海外赴任にありがちな洗礼の数々をしっかりと受けつつも、夏の爽やかさが素晴らしくて…楽しく生活しています(笑)。レスターは、イングランド中部の人口33万の緑豊かな田舎街。プレミアリーグを初制覇した Leicester City F.C. の優勝パレードは凄い賑わいで、24万人が参加したそうです。BBCでも中継された祝賀会場の隣に赴任先があります。

昨年5月に、Medical Research Council (MRC) Toxicology Unit に Electron Microscopy & Ultrastructural Pathology Group と銘打って、小さなラボを拓く機会に恵まれました。国立レスター大学医学部にあります。MRC という組織は、20世紀初頭に設立された「Research と Funding」を目的とした英国政府直系の機関です。これまでに、22のノーベル賞(医学生理学賞、化学賞)を輩出してきたそうです。現在のスタッフは、ティム(英)とマリア(西)の二人だけで、私も貴重な戦力となるべく、ポスドク時代以上に緊張感のある毎日を過ごしています。赴任した週に、大量の試料が私の解析を待ち構えていました。京大でもそうでしたが、周囲の多くの方のご協力があって、初めて研究に着手できるようになります。渡英する半年ぐらい前に、お隣の教授の先生から、「(あなたの代わりに)予算申請したのがパスしたから、電頭でも購入したらどうか？」というメールを頂きました。英国紳士のお国柄でしょうか、素敵すぎる話に、ただただ恐縮です。ご好意を無駄にしないように、CMOSカメラとSTEM検出器を搭載したクライオ電頭を導入して、Toxicology に「トモグラフィと単粒子解析」の選択肢を加えました。HPFやCEMOVISの小部屋も造りました。既に数年前からあるSBF-SEMも引き継ぐことに。(フリーズレプリカがあれば、ロイヤル・ストレート・フラッシュでしょうか?)薬効評価として、組織から細胞、分子複合体へと繋がる統合的な構造解析

のワークフローを提案できればと考えています。現在は、単粒子解析に欠かせない「Low doseかつMulti-framesでの自動撮影システム」を稼働させ、細胞死に関わる周期性線維の画像取得に入りました。

学生らに画像解析をレクチャーする場合、彼らの要求は明確なので、必要な作業スペースを調整したうえで専門的な作業方法を伝授してあげれば、数週間後に結果をブラッシュアップするだけで充分です。会話も理路整然としていて優雅です。ポスドクにもなれば、もはや教授のような雰囲気もあり、将来が楽しみです。しかし、彼らの余裕・品格はどこからくるのでしょうか?英国の教育制度全般に関係がありそうです。MRCには、Education-Studentship-Fellowshipに及ぶ繊細な支援体制が整っています。凄いと感じるのは、Clinical及びNon-clinicalポスドク以降の支援が3段階あり、特に後半のシニアな人々への支援が手厚く、期間も最長7年となっていることです。もちろん、審査は非常に厳しいのですが、このような重厚な若手育成が英国の高い研究レベルをしっかりと支えているように思います。もう1点凄いのが、グループリーダーや教授のようなPI独立研究者以外にも、Non-PI研究者及びテクニシャンとしてパーマネントの職位が設けられていることです。(日本も昔はありましたよね。)加えて、PhDを取得した博士を積極的に雇用する企業環境が素敵で、英国の社会全体の活力とも関係しているのでしょうか。もちろん英国でも若手育成は中々大変で簡単な問題ではありません。渡英に際して興味深いことを私に教えて下さった先生がいらっしゃいました。(前略)プレミアリーグのラニエリ監督は、誰からも優秀だと認められるような目立った選手を、大金を払って掻き集めるようなことはせず、目立たないけどセンスがある安い選手を見つけだすそうです。そして、彼らの自主性を尊重し、「楽しくプレーすればよい!そして出来れば、チームを勝たせてくれ!」と仰るとのこと。いいですねえ!やはり大して目立った存在ではなかった選手の活躍は、そのような背景と本人の目覚めと努力の相乗効果によるものでしょう。(後略)私にもチャンスがあるでしょうか、もう少し頑張ってみようと思います。



Nobuhiro Morone: Move to England 2015  
Hodgkin building, Lancaster Road, Leicester LE1 9HN, UK  
E-mail: nm340@leicester.ac.uk  
2016年10月29日受付